

大宅文庫ニュース

公益財団法人大宅壮一文庫 2026 年発行 通巻 91 号

開館55周年記念号



高橋 ユキさん（大宅文庫閲覧室で）＜9ページに寄稿＞

特集

大宅文庫が
生まれた年

寄稿

「紙の復権」期待捨てずに
「消える報道」と「残る雑誌」

Inspire Impossible Stories

「おもしろくて、ためになる」を世界へ



KODANSHA

大宅文庫ニュース

2026年 91号
CONTENTS

開館55周年記念号

特集

1971年 大宅文庫が生まれた年
創刊号で見る55年前の世相 4

寄稿

「紙の復権」期待捨てずに
難波 功士 6
好評放送中
関口宏の雑誌の記憶 8

寄稿

「消える報道」と「残る雑誌」
高橋 ユキ 9
「大宅文庫に見る」シリーズ
第2弾「万博」 10
雑誌レーダー 2026 14
第57回 大宅壮一ノンフィクション賞
泉 秀一
「アフリカから来たランナーたち」 17
2025年索引ランキング
大学連携 18
大宅文庫パトロネージュ
インフォメーション 20 22

〈広告のページ〉

講談社	2
大日本印刷	7
ブレインテック	10
日外アソシエーツ	11
キッコーマン	12 13
文藝春秋	16
図書館流通センター	23
集英社	24

大宅壮一文庫 理事長 大宅映子

雑草譜



※大宅壮一は自宅に構えた
書庫を「雑草文庫」と称した。

忘れられない父と食のこと

一人ぐらしも一年半となった。ヒマは沢山あるので、TVをボーッと見ている時間が長い。
一番の感想は、「それにしても『食』に関する番組の多いこと!」
簡単なおかず、のような実用的なものから高級レストランの何万

族と一緒にどうぞ」というお誘いだったが、大宅壮一の娘がそんなぜいたくな会をやっているのか、という声をいくつも聞いた。私がやりたかったのは、珍品を家族で食べる、のがねらいだっただけ。
しかし世の中では、大宅壮一はぜいたくは敵だではなく、ぜいたくは素敵だ、が似合っているのが常識として広まっていたのだ。

父が自給自足を達成するために、近所の農家に教えてもらって朝早くから、暗くなるまで、野菜、米からブタまで全力で農業に勤しんでいた。
ある日、トマトが沢山出来たら、娘たちの所へもって行ってやろう、とニコニコしながら、預かってもらっていた山梨まで出かけた。

父も母も半泣き。私も今でもあの光景を思い出すと涙が出てしまう。
預かってもらっている負い目、ガブリと食べさせてやってくれたはともいえないかったのだろう。わが家の食べものに対する考えは、ここが原点。

父と食のことで一番強烈に覚えていて忘れられないのは、戦争中のことだ。
戦争中、一番上の兄は学童疎開。二人の姉は知人の家に預けられ、四歳だった私は八幡山に残った。

「なんだかサイの目みたいに切ったトマトを三つぐらい、もらってたヨ」と横をむいた。
父も母も半泣き。私も今でもあの光景を思い出すと涙が出てしまう。
預かってもらっている負い目、ガブリと食べさせてやってくれたはともいえないかったのだろう。わが家の食べものに対する考えは、ここが原点。

特集

1971年

大宅文庫が生まれた年

創刊号で見る
55年前の世相

1971 主な創刊雑誌

- | | |
|-----|--|
| 1月 | ヤングボウル
マスコミ文化 |
| 2月 | アニマルライフ |
| 3月 | 市民
週刊FM |
| 4月 | 公害トマレ
青い海
オーシャンライフ
ジャテック通信 |
| 5月 | おんなの叛逆
微笑 |
| 6月 | 週刊アサヒゴルフ
★ non・no |
| 7月 | * プレイガイド
ジャーナル |
| 8月 | 公害防止産業
ホリデーオート
ウーマン
噂
SNOOPY |
| 9月 | 遊
薔薇族
BIG BIKE
歴史と人物
アサヒボウル |
| 10月 | ★ サイエンス
週刊パーゴルフ |
| 11月 | ★ 環境
★ 創
旅と鉄道 |
| 12月 | * コンサートガイド |

★ 大宅文庫で継続受入中
* 創刊号は未所蔵

大宅文庫は2026年、開館55周年を迎えた。オーブンは1971年。前年の大阪万博に象徴される高度経済成長の熱狂が頂点を過ぎ、戦後日本は調整・再編の時代へと向かう。その「分水嶺」ともいえるべき年の創刊雑誌のうち、大宅文庫が所蔵する創刊号は103誌。消費社会が成熟し、人々の関心が日常の暮らしへと向きはじめたとき、雑誌は何を映し、何を問いかけていたのか。創刊号を手がかりに、当時の世相を読み解いてみる。(下村芳央 相原麗)

前年の『anan』に続き、集英社が創刊した『non・no』はアイヌ語で「花」ということばから名付けたという。ライフスタイルの変化やウーマン・リブを背景に、さまざまな女性誌がまさしく花開いた。『non・no』はファッション誌だが、国鉄の観光キャンペーン「デイスカバー・ジャパン」と連動した旅行特集も展開。雑誌片手に旅する若い女性たちは、やがて「アンノン族」と呼ばれる。

講談社の『ウーマン』は「ファッション感覚の生活誌」を掲げ、洗練された新しい主婦像を模索。小学館の『微笑』は芸能・事件報道に加えて「女性の性」にも踏み込んで

* 脱「良妻賢母」

高度成長がもたらした生活のゆとりは、余暇の過ごし方も多様化させ、趣味に特化した専門誌も続々と生まれている。

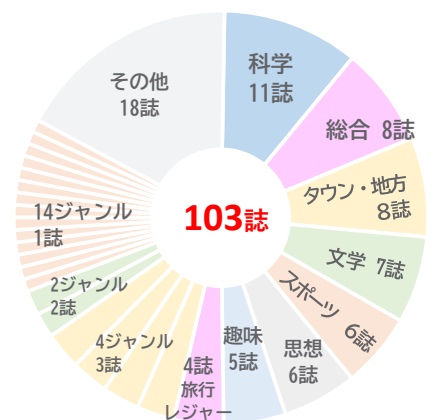
* 余暇・レジャー

高度成長がもたらした生活のゆとりは、余暇の過ごし方も多様化させ、趣味に特化した専門誌も続々と生まれている。

* 科学と公害

1969年のアポロ月面着陸を機に世界的な科学ブームが巻き起こり、日本でも科学技術への関心が高まった。日本経済新聞社が創刊した『サイエンス』は、米国『SCIENTIFIC AMERICAN』の日本版

1971年創刊号 ジャンル別 誌数



話題を呼んだ。商業誌が消費と自由をうたう一方で、女性の労働条件を契機に生まれた『おんなの叛逆』は、ウーマン・リブ運動を代表するミニコミ誌として女性の声と闘いの記録を発信した。

かつて洋裁の「型紙」が付録だった時代もある女性誌だが、「良妻賢母」という旧来の価値観から脱却。自ら消費し、発言し、旅する女性たちが、新たな時代のはじまりを映し出している。

ゴルフ場も増え、『週刊アサヒゴルフ』『週刊パーゴルフ』はサラリーマン層への普及とトーナメント文化の定着を後押しした。若者の間ではラジオ放送を録音する「エアチェック」が流行。創刊された国内2番目のFM情報誌『週刊FM』は、後続の『FMレコパル』『FM STATION』とともに音楽文化を牽引していく。タウ

情報では『プレイガイドジャーナル』(通称プラグジャ)が大阪発のサブカルチャーを発信し、東京では『コンサートガイド』が翌年の『ぴあ』に先駆けて創刊された。SL引退は、別れを惜しむ人たちのSLブームを巻き起こした。『別冊鉄道ジャーナル』として創刊された『旅と鉄道』は「乗り鉄」のバイブルだった。マイカーブームを背景に生まれた自動車雑誌『ホリデーオート』は、創刊号のピンナップに「フェアレディ240Z」を配した。70年代半ば以降はアイドルが表紙の定番スタイルになった。

1969年のアポロ月面着陸を機に世界的な科学ブームが巻き起こり、日本でも科学技術への関心が高まった。日本経済新聞社が創刊した『サイエンス』は、米国『SCIENTIFIC AMERICAN』の日本版

ウラー中山律子を表紙に据えた。

1971 世相クロニクル

1970年 …成長・拡大の頂点

- 3月 大阪万博開幕
「よど号」ハイジャック
7月 国内初、光化学スモッグ
8月 歩行者天国スタート
11月 三島由紀夫、割腹自殺

1971年 …転換への分水嶺

- 5月 横綱大鵬、引退表明
大宅壮一文庫 開館

- 6月 沖縄返還協定調印
7月 環境庁発足
8月 ニクソン・ショック

1972年 …調整・再編へ

- 2月 札幌冬季五輪
「あさま山荘」事件
5月 沖縄、本土復帰
7月 田中角栄内閣発足
9月 日中国交正常化

で、最先端の科学を写真やイラスト、わかりやすい解説で紹介した。『日経サイエンス』として現在も刊行が続いている。

その一方で公害が深刻化。環境庁発足は、経済最優先から環境や生活に目を向ける転換点となった。公害裁判のさなかに創刊された『公害トマレ』は「四日市公害と戦う市民の会」のミニコミ誌的な機関誌。法規制の強化に伴い、公害防止機器を扱う専門誌『公害防止産業』も生まれた。『環境』は公害・環境破壊を告発する総合誌として水俣病やPCB汚染をいち早く深く取り上げた。

科学への期待と公害の告発。「明暗」ともいべき二つの大きな潮流が表れている。

*マスコミのマスコミ

60年代後半にはテレビの世帯普及率が9割を超え、新聞・雑誌とあわせてマスメディアは世論形成

や大衆文化に決定的な影響力を持つに至った。「二億総白痴化」という言葉でテレビの功罪を鋭く突いた大宅壮一は、巨大化したマスメディアそのものを検証する「マスコミのマスコミ」の必要性を早くから説いていた。

大宅の直弟子で「トップ屋」だった梶山季之は『噂』を自費で興した。「活字にならなかつたお話の雑誌」を掲げ、大手メディアが書けない裏話やマスコミ批評の先駆者となった。総合雑誌として創刊された『創』は、現在も続く数少ないメディア批評誌である。表現の自由や事件の真相を多角的に掘り下げる問題意識は『マスコミ文化』『市民』にも通底し、それぞれの立ち位置から巨大化するメディアに視線を注いだ。

『マスコミ文化』創刊号には、大宅壮一が亡くなる1か月余り前の70年10月15日に行った対談記事が掲載されている。

*サブカルチャー

既存のジャンルに収まらない雑誌も生まれた。工作舎の『遊』は、松岡正剛の編集と杉浦康平のブックデザインで科学・芸術・思想を境界なく編み込む「オブジェマガジン」を標榜。サブカルチャーやクリエイターに多大な影響を与えた。第二書房の『薔薇族』は、国内初の男性同性愛者向け商業雑誌

で、孤立しがちな当事者たちの出会いと表現の場になった。半世紀余を経た2026年、その文通欄を題材にしたミュージカルが新宿で上演された。

詩人の谷川俊太郎の翻訳で親しまれた漫画『ピーナッツ』を軸にしたスヌーピー専門誌『SNOOPY』もこの年の創刊。グッズ情報とともにアメリカンカルチャーやファッション情報をもたらした。

1971年の……

- 1号店** ミスタードーナツ
マクドナルド
新商品 カップヌードル
アルミ缶ビール
スティックのり
新番組 『スター誕生!』
『仮面ライダー』
『天才バカボン』
『ルパン三世』
流行語 脱サラ
ニアミス
ハンシーン
アンノン族
ホットパンツ

雑誌は語る

浮かび上がる
時代意識の変化

1971年の創刊号を見渡すと、過渡期を迎えた時代意識の変化が浮かび上がってくる。女性の自立、余暇の充実、環境への危機感、マスメディア不信、そして新しいカルチャーの芽生え。急速な経済成長からスピノフしながら、私たちの「いま」が形作られてきたのかもしれない。この年創刊された雑誌の多くはすでに休廃刊となり、大宅文庫で現在も受け入れているのは3誌のみだ。けれども、世相を映す鏡として雑誌の価値は変わらない。大宅文庫開館から55年の時を超えて、所蔵雑誌は今年おおくを語りかけてくる。

大宅文庫で「老人」の記事を探すには？

まず大項目で「世代」を選び、「中年、老人」→「老人一般」と進みます。その先に65のキーワード。例えば「老人パワー」を選ぶと「100歳超でも現役で働く」「80代でスポーツ記録」などスゴイ「老人の記事が検索できます」。

「老人の恋愛」「老人の結婚」というキーワードもあります。でも、老人って、いったい何歳からですか？

昔は60代ぐらいから老人に分類していたようですが、現在は定年が65歳まで延び、見た目も若い人が増えました。小泉今日子さんや阿部寛さんを老人と言ってよいのか……と。そ



老人って何歳から？

そもそも老人という言葉自体使わなくなり、今は「シニア」がポピュラーかもしれません。大宅文庫の索引体系が作られた数十年前とは、もう老人の定義も違っているのでしょうか。キーワードや体系を変えられたらいいのですが、なにせ1888年からの索引があるため、簡単ではありません。

ということで「シニアの恋愛事情」という記事があった場合、これは「老人の恋愛」なのか、「中年の恋愛」なのか、分類に悩みます。元氣なシニアが増えるのはとてもいいことです。が、索引担当の悩みは尽きないのです。

(編集委員 小林恭子)

寄稿

「紙の復権」期待捨てずに



なんば・こうじ

1961年大阪市生まれ。84年に博報堂に入社し、制作部署に配属される。91年から93年にかけて会社を休職し、大学院生を送り、96年関西学院大学社会学部に転職。現在同教授、大学図書館長を兼任。専門は広告・PR論、ポピュラーカルチャー論など。大宅壮一文庫をベースとする雑誌文化研究会のメンバーでもある。

二〇〇九年に『創刊の社会史』（ちくま新書）を出した頃、私も細々とだが雑誌創刊号を集めていた。もちろん店頭で見かけて購入したり、ネットオークションなどで無理なく落とせる範囲のものばかりで、大宅壮一文庫や岩波書店の壮大・重厚なコレクションに及ぶべくもなく、ただの古雑誌の束にしか見えないのだが。そんなコレクションにもとづいたので、『創刊の社会史』は主として一九七〇年代以降を扱い、『an・an』創刊あたりから説き起こす構成となっている。

そんな収集品の中で、妙に愛着のわいている一冊をここでは紹介したい。

一九七七年十一月一五日発行の季刊誌『MWM（むうむ）』創刊号。版元は今亡き婦人生活社

難波 功士 関西学院大学社会学部教授

である。『創刊の社会史』を書いていた当時は入手できておらず、また大宅壮一文庫でも国会図書館でも現物を確認できず、孫引きに頼って「A5判二二〇ページの雑誌」「丁度真中の一一〇ページのところで前後が分かれている」「同じ体裁の二つの雑誌を裏表紙同士をくっつけたもの」、そして両面の表紙Ⅱ写真Ⅱは「天地が逆」となっており「一方が「男のページ」、もう一方が「女のページ」という、いうなれば「両性具有誌」と紹介するにとどまっている。

ネット普及以前の媒体
愛着わく雑誌創刊号

その後、「日本の古本屋」か何かで見つけ、購入することができた。たしかに両面から読ませる不思議な造り。大学の紀要など縦書



きと横書きが混在する冊子で、ダブルフェイスはまああるものの（一九九七年の『アスキー』創刊号がこのタイプ）、『むうむ』のように両方向から天地逆に読み進む形式はレアだろう。

戦後の四大婦人誌の一角を占めた『婦人生活』の婦人生活社も、一九七七年に『クロワッサン』（平凡出版、現マガジンハウス）を意図して『ノラ』を創刊したが、四号で休刊。そうした試行錯誤の中で、当時深夜のラジオ番組でDJとして人気を集め、同社からエッセイ本も出していた作詞家かぜ耕士を、企画・編集にむかえ若者向

けの両性誌にチャレンジしたものだと思われる。

女性パートのメイン特集が「新職業ガイド ラジオは女性を待っている？」であるのに対し、男性パートは「少女マンガの世界 あなたは少女マンガをみたか？」。誌面からは当時の深夜ラジオの人氣ぶりや、いわゆる「花の二四年組」の女性マンガ家たちの活躍、陸奥A子や田淵由美子など乙女チックマンガの隆盛、さらには「マンガファン誌即売会（通称コミケット）」の台頭などが伝わってくる。インターネット普及のはるか以前、一九七〇年代は電波や紙、ラジオ番組や同人誌が若者たちをつなぐ媒体だった。

近年『an・an』はウェブ展開に軸を移し、紙の方はもっぱら男性アイドルのファンダム向けに存続しているように思える。たしかに紙だけの雑誌、出版社はずいぶん淘汰されてしまった。

だが、アナログ盤のレコードが最近好調だという。デジタルデトックスやスローメディアといった言葉も聞かれる。「紙の復権」への期待は捨てないでこう。

一文字ずつ手描きで原図を作成し、
活字を鋳造する型となる
母型を機械で彫ります。
母型のない活字は職人が彫刻刀で
直彫りして作字します。



市谷の杜 本と活字館 Ichigaya Letterpress Factory

棚に並んだ大量の活字から、
原稿にしたがって、一字ずつ選びます。
この作業を「文選」といい、
活字の配列を覚えている文選職人は
素早く活字を拾って文章をつくります。

五感で楽しむ、
リアルファクトリー。

活字を拾う。印刷の原点である活版印刷は、膨大な活字が並ぶ棚から職人が原稿に合わせて、一文字ずつ、拾っては並べてを繰り返して文章を組み上げます。作字、鋳造、文選、植字、印刷、製本。想像を超える緻密な作業と途方もない数の工程を経て、一冊の本が仕上がります。

「市谷の杜 本と活字館」のテーマは、活版印刷と本づくり。この施設は、大正時代に建てられた大日本印刷の市谷工場の営業所を修復・復元したものです。館内には、かつての印刷工場の風景を一部再現した印刷所があり、ここを仕事場として、職人が活字を拾い、印刷機を回しています。

二階にある制作室では、印刷と本づくりを体験することもできます。他にも活字や本づくり関連の企画展を行う展示室や大日本印刷の歴史を紹介している記録室、さらには購買、喫茶などがあり、知識を深めながら楽しい時間を過ごすことができます。

一八七六年創業の大日本印刷は、日本の近代活版印刷文化の始まりとともにあります。活字に親しみ、歴史を探索しながら、奥深く美しい、印刷の世界をお楽しみください。

拾った活字を
ページの形へと組み上げます。
余白になる行間や文字間もすべて
金属で埋め尽くして、
印刷のための版に仕上げます。

印刷された紙を折り、
重ねて綴じて、
本の形状に仕上げます。
綴じ方には、余かがり綴じ、
中綴じ、無線綴じなどの
手法があります。

文字の型である母型に
溶けた金属を流し込んで、
一文字ずつ、金属活字をつくります。
良質な印刷には
活字の均一性が求められます。

完成した組版を機械にセットし、
インキをつけて紙に刷ります。
校正機で校正刷りを行い、
誤植がないか確認した上で、
本機で刷ります。

住所：162-8001

東京都新宿区市谷加賀町 1-1-1

電話：03-6386-0555

開館：10時～18時

休館：月・火(祝日の場合開館)

入場無料



ichigaya-letterpress.jp

DNP 大日本印刷

放送テーマ(ゲスト) 一覧

2024年

- | | | |
|---|----------|---------|
| 1 | 化粧品 | (萬田久子) |
| 2 | 喫茶店 | (石井正則) |
| 3 | インスタント食品 | (伊集院光) |
| 4 | 国産車 | (テリー伊藤) |
| 5 | 〇〇族 | (高橋英樹) |
| 6 | 都市伝説 | (大槻ケンヂ) |

2025年

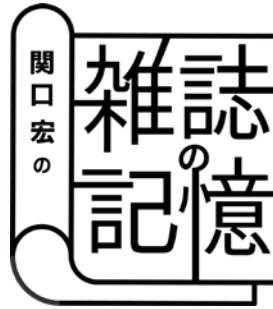
- | | | |
|----|-----------|--------------|
| 7 | 渋谷 | (椿鬼奴) |
| 8 | 防寒 | (宮崎美子) |
| 9 | チョコレート | (楠田枝里子) |
| 10 | 電話 | (松尾貴史) |
| 11 | 温泉 | (東貴博) |
| 12 | マジック | (Mr.マリック) |
| 13 | 自販機 | (マキタスポーツ) |
| 14 | 六本木 | (宮本亞門) |
| 15 | ジーンズ | (ケンドーコバヤシ) |
| 16 | 白物家電 | (天野ひろゆき) |
| 17 | 東京の私鉄 | (六角精児) |
| 18 | ハワイ | (早見優) |
| 19 | 団地 | (ビビる大木) |
| 20 | 花火 | (西村知美) |
| 21 | 日本の涼しかった夏 | (伊集院光) |
| 22 | お酒 | (松尾貴史) |
| 23 | 新宿 | (ミッツ・マングローブ) |
| 24 | カレー | (加藤紀子) |
| 25 | 未来予測 | (テリー伊藤) |
| 26 | ポイントと景品 | (藤田朋子) |
| 27 | 妖怪 | (荒俣宏) |
| 28 | 昭和100年 | (寺尾聰) |

2026年

- | | | |
|----|--------|-----------|
| 29 | 東京駅 | (福澤朗) |
| 30 | 古代史 | (いとうせいこう) |
| 31 | 水族館 | (関根麻里) |
| 32 | スナック | (モト冬樹) |
| 33 | 京都 | (杉本彩) |
| 34 | フィギュア | (佐野史郎) |
| 35 | 流行語 | (神田伯山) |
| 36 | 銀座 | (宮本亞門) |
| 37 | 日本古代史 | (荒俣宏) |
| 38 | ヘアスタイル | (勝俣州和) |
| 39 | 文房具 | (山崎怜奈) |
| 40 | 宇宙人 | (室井滋) |
| 41 | 婚活 | (阿川佐和子) |
| 42 | 占領下の日本 | (毒蝮三太夫) |
| 43 | 祭り | (東貴博) |

※2026年8月まで
※特別編を除く

↑
展示したテーマ



大宅壮一文庫を舞台に毎週土曜午後4時から、BS朝日で放送中のテレビ番組「関口宏の雑誌の記憶」。昭和や平成の懐かしいトピックを中心に、関口さんとゲストが交わす軽妙で味わい深いトークが好評だ。その番組で紹介された雑誌を実際に手に取って読める企画展が6～8月、大宅文庫で開催された。

BS朝日 土曜午後4時放送

番組の雑誌を展示
「時代の空気」楽しむ

の記憶を呼び覚ます。

今回の企画展は大宅文庫主催で、番組で取り上げられた多彩な放送内容から14のテーマをピックアップした。都市伝説や妖怪のほか、

インスタント食品、チョコレート、カレーなどの食べ物、渋谷や新宿、銀座など土地にまつわる話題、未来予測や流行語……。番組のネタ本としても使われたさまざまなジャンルの雑誌が、閲覧室の一角に並べられた。写真上。来場者は昭和や平成の雑誌が放つ「時代の空気」をゆっくり楽しんでいた。

「足を運んでみて」 阿川さん

作家・エッセイストの阿川佐和子さんが番組にゲスト出演した。テーマは「婚活」(左表41番)。大宅壮一文庫評議員でもある阿川さんに、番組収録で訪れた大宅文庫のことを聞いた。

文藝春秋社やテレビの資

料提供で利用して40年ぐらいいになります。でも、ちゃんと大宅文庫に行ったのは今回が初めてでした。いろいろな情報がデジタル化され、今はリアルな映像を見るだけで「見た」ことになってしまふ。ガラパゴス島も知ってるし、秘境も

阿川さんと関口さん (BS朝日)



とにかく一度、大宅文庫に足を運んでください。行ってみると、「肌でわかること」がいっぱい。興味の扉がもう一つ開くんじゃないかという気がします。(談)

知ってるし、世界遺産も全部知ってる……みたい。けれども、行ってみなければ空気感とか肌感とか、わからない。大宅文庫は「行ってみなければわからない」そのものだという気がします。

関口さんの番組では、過去にあった雑誌を面白いテーマで検索していく。「あの雑誌、好きだったなあ」とか。地下の書庫に降りる階段が狭くて、雑誌がぎっしり並んでいた。こういう書庫から1冊ずつ、コピーして送ってくださった。初めて実感がわきました。隣の記事を読んだり、すごく変な広告があったり。「こんな時代があった」と逆に新鮮に映ります。

寄稿

法廷傍聴通い始め22年目 「消える報道」と「残る雑誌」

傍聴人として法廷に通い始めて22年目に突入した。この間、事件報道の主戦場は明らかに紙からウェブへと移った。速報性では、ウェブに軍配が上がる。だが最近、私はその「速さ」と引き換えに、大事なものを失っているように感じるが増えた。

以前、著書『逃げるが勝ち 脱走犯たちの告白』（小学館新書）の執筆にあたり、富田林警察署から脱走した男の逃走劇を取材した。男が確保されたのは脱走から

49日後。大阪から遠く離れた山口県周南市の道の駅において、万引きを働いたところをGメンに呼び止められたことがきっかけだった。

まだ男の身柄が確保される前、警察が血眼になってその行方を探していた時期の報道がどのようだったのかを調べるため、頼ったのが大宅壮一文庫だった。当時のウェブ記事は更新や削除が重なり、渦中の空気感まで拾い直すことは困難だ。だが雑誌は

その瞬間の温度をそのまま閉じ込めている。

新聞記事にはない、生々しいコメントが掲載されているのも魅力だ。誰が何を語り、世間がどう受け止めていたか。ページをめくるたび

たかはし・ゆき 1974年福岡県生まれ。2005年、女性4人の傍聴集団「霞っ子クラブ」を結成し、以後フリーライターに。主に刑事裁判を傍聴し、さまざまな媒体に記事を執筆している。著作に『つけびの村 山口連続殺人放火事件を追う』（小学館文庫）など。

フリーライター

高橋 ユキ

に、時間が巻き戻る感覚があった。実際のところ男はさしたる変装もせず、日本一周を目指すサイクリストになりきり、自転車を西に走らせていたわけだが、当時の記事によると「女装説」「新宿潜伏説」が囁かれていたから面白い。

一方で、こんな経験もある。あの事件の発生当初に読んだ報道と、後の裁判で明らかになった事実がどうも食い違う。あれ、と気がかりになり、発生時の記事を見直そうとしたら、そのページはもう消えていた。理由は分からな

い。念のために、と当時の記事を保存していたから分かったことである。そうでなければ、消えたことにも気づかないだろう。

ウェブ記事は生き物のように書き換えられ、時に静かに消えていく。もちろん、私自身も懲役刑を終えようとしている元被告人の記

事を、社会復帰の妨げにならないよう削除を申し出ることがある。消えること自体が一概に悪いわけではない。ただ、その判断が誰にも見えないまま行われてしまうことに、危うさを感じている。事件報道は本来、「その時点で何が語られていたか」自体が記録として重要なはずだ。当初の報道と事実のズレそのものが検証の対象になる。その足場が消えてしまえば、私たちは事件を検証する手段の半分を失うことになる。

雑誌という媒体は、発行された瞬間に内容が固定される。良くも悪くも、書き換えることができない。その不便さこそが、後年になって「あの時、何が語られていたか」を確かめるための頼れる足場となる。大宅壮一文庫のような場所が、そうした雑誌を長期にわたり保存し続けていることの意味は、ウェブ時代においてむしろ重みを増している。

速報はウェブに委ね、記録は紙に託す。事件を追い続ける書き手として、両者の役割の違いを意識しながら仕事をしていきたいと、常日頃から思っている。

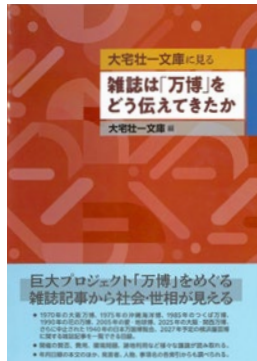


撮影：新潮社

「大宅文庫に見る」シリーズ

第2弾「万博」

世相の記録

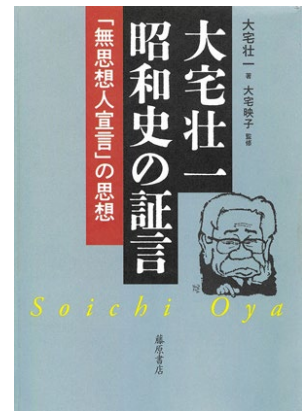


シリーズの第1弾は2024年刊行の『大宅文庫に見るコロナ・パンデミック』（山田健太監修、日外アソシエーツ）だった。年表や政策、疫学統計などでは読み取ることのできな

大宅文庫の編集で世相が読める索引目録として好評を博した「大宅文庫に見る」シリーズの第2弾が、2026年7月に刊行された。今回のテーマは「万博」。3月には大宅文庫の創設者・大宅壮一の最新選集も出版され、前年の「解体新書」シリーズから続く各種刊行物が大宅文庫に新たな光をあ

（鴨志田浩）

「昭和百年」に最新選集



創設者・大宅壮一の最新選集は大宅映子監修『大宅壮一 昭和史の証言「無思想人宣言」の思想』（藤原書店）。昭和初期から30年頃までの論評を中心に、戦前の弾圧と占領下の混乱、文壇やマスコミ点描、日本を動かした怪物たち、高度経済成長の果てなど、「昭和百年」の刊行にふさわしい一冊である。

「雑誌の記憶」冊子に



BS朝日で好評放送中の番組から「関口宏の雑誌の記憶 Magazine」が8ページの冊子として製作されました。ご興味のある方は大宅文庫でご覧いただけます。

いコロナ禍の「世相の記録」として、雑誌記事の資料性を再確認させた。

第2弾は『雑誌は「万博」をどう伝えてきたか』（日外アソシエーツ）。1970

年と2025年の2度の大阪万博をはじめ、沖縄、つくば、愛知など6つの万国博覧会を報じた雑誌記事の索引をまとめた。

誘致や計画、設計から、人事・財政、地元との折衝、歓迎や反対運動、成功を絶賛する報道、または批判する記事など、さまざまな角度や視点から万国博覧会と

いう世相を追いかけた記録である。

文庫の雑誌や索引利用が再評価され

このほか、2025年には大宅文庫の雑誌記事索引を検索できるWeb OY Aibunkoが、データベースの使い方の入門書などでも取り上げられた。

小曾川真貴「調べものに役立つ図書館のデータベース 25年版」（勉誠社）、池内有為・木村麻衣子編「メタデータ」のパスベクティブ」（勉誠社）で、同年発行の阪本博志編『大宅文庫解体新書Ⅱ』（勉誠社）と併せ、大宅文庫所蔵の雑誌資料や索引の利用が改めて再評価されていると言えよう。

専門図書館の蔵書管理・検索サービスなら
「情報館」



ブレインテック

株式会社ブレインテック
<https://braintech.co.jp/>

情報館

『雑誌記事人物索引25年版』

図書館「必携」の1冊

例年刊行している『大宅壮一文庫雑誌記事人物索引2025年版』（日外アソシエーツ）が、2026年

は時期を早めて9月に刊行される。
「毎年のこと」になった大谷翔平の大活躍、長嶋

茂雄の逝去、石破政権から高市政権への交代など、2025年は話題の多い年だった。
その1年間を、雑誌に取り上げられた人物記事から回顧する。図書館・資料館必携の一冊である。

文学フリマに参加7回目

大宅文庫は5月、東京ビッグサイトで開催された「文学フリマ東京42」に参加した。写真上。

文学作品の展示即売会で、「自分が（文学）と信じるもの」を自らの手で販売するイベント。大宅文庫のことを知らない「本好き」にアピールしようと、年2回の東京開催に7回連続の出



地元とコラボ「昭和クイズ」

大宅文庫が地元の社会福祉協議会などとコラボしたイベント「昭和クイズ」が毎年続けられている。世田谷



同様のイベントは、秋には世田谷区立経堂図書館とも共催。「雑誌の図書館」として古い資料を活用し、地域への貢献に力を入れている。

店となった。今回はWeb OY A-bunkoを使い、作家ごとの索引リストの冊子を作成。また、『大宅壮一文庫 所蔵雑誌一覧』も1000円で初めて頒布した。ブースでは「大宅文庫ニュース」も配布し、多くの来場者に文庫をPRした。

区社協の上北沢地区事務局とは7月に開催し、リピーターも含む高齢者が脳トレを楽しんだ。写真下。
今回は通常のクイズに加えて、古い雑誌の表紙を使ったチーム戦「この人は誰でしょう？」クイズも行った。初対面の参加者同士が話し合いながら答えを導き出し、すぐに打ち解けていた。

また、イベントの最後には参加者が出題者となり、自分でクイズ作りに挑戦するコーナーも。参考資料として大宅文庫が用意した雑誌記事を熱心に読み込み、クイズを作成していた。

雑誌記事で読む人物動向

大宅壮一文庫
雑誌記事人物索引

編集・発行／公益財団法人 大宅壮一文庫

2025年版 2026年秋販売予定

2024年版 A4・上製本・2分冊 セット価格105,600円(税込)

- 大宅壮一文庫が雑誌から収録した人物索引データを、各年度版としてまとめた冊子体目録です。
- 様々な分野の話題の人物を収録。毎年のキーマンを通して社会文化の動向を読み通せます。
- 収録人物は雑誌300種に登場した政治家、経済人、作家、スポーツ選手、芸能人など、活躍をした人物です。
- 2010年～2023年各年版もご紹介します。

※この商品はオンデマンド商品です(受注後、制作・納品いたします)。
詳しくはこちらから→

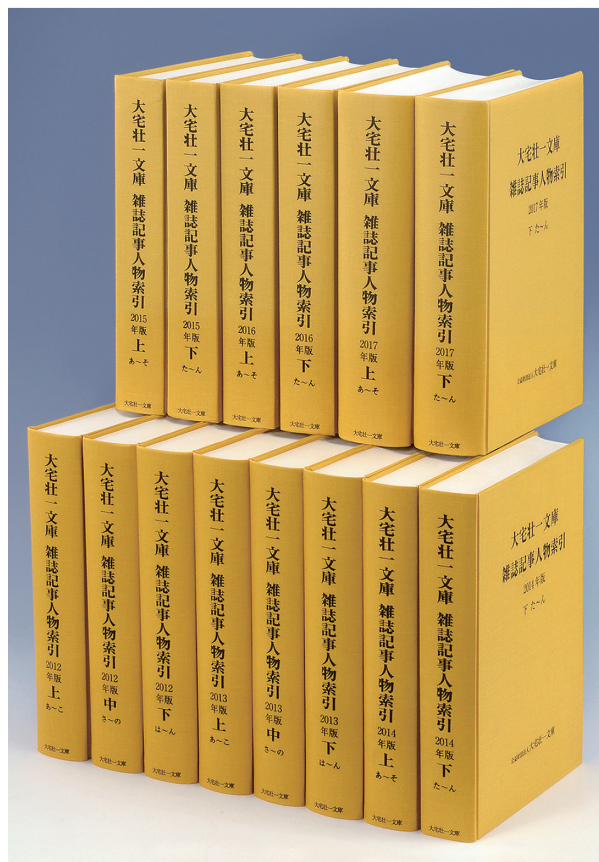


日本の国際博覧会に関する記事を一覧

大宅壮一文庫に見る

雑誌は「万博」をどう伝えてきたか

編集／大宅壮一文庫 発行／日外アソシエーツ
A5・540頁 2026.7刊 定価19,800円(本体18,000円+10%)
ISBN 978-4-8169-3104-8



日外アソシエーツ

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス
TEL.(03)3763-5241 FAX.(03)3764-0845
E-mail:sales@nichigai.co.jp https://www.nichigai.co.jp/



いつでも新鮮®
しぼりたて生しょうゆ

「生しょうゆ」の「生」って何？
って思ってたけど、そうか、これなんだあ。
フレッシュな味わいに、素材がぐんと引きたつ感じ。
その秘密は、火入れをしない非加熱製法から生まれた
鮮やかな色、おだやかな香り、まろやかで豊かなうまみ。
そして、開けてからも鮮度をキープする、密封ボトル。
一滴ずつ使えて、最後の一滴まで新鮮。
いつもの料理がほら、ひとつ上の味になる。

あ、しぼりたて。
が、いつでも新鮮。



しぼりたて生 検索

キッコーマンお客様相談センター 0120-120-358

kikkoman

おいしい記憶をつくりたい。

日本がおいしくなるワイン。



ぶどうづくりから丹精込めてつくり上げた
プレミアム日本ワイン
マンズワイン「ソラリス」



多くのお客様に支えられ、
2026年で誕生から25周年を迎えます

SOLARIS(ソラリス)とは、ラテン語で「太陽の」を意味します。
その名には、陽光を惜しみなく浴びて育った良質なぶどうだけを選び抜くという、
マンズワインの揺るぎない信念が込められています。

日本の風土から、世界の銘醸ワインと肩を並べる一本を生み出すために――。
私たちは、ぶどうづくりからびん詰め、保管に至るまでのすべてに心を尽くし、
ぶどうが秘める可能性を見つめながら、研鑽を重ね続けています。

飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は楽しく適量で。のんだあとはリサイクル。

kikkoman 

講談社

『週刊現代』は、24年末の大幅リニューアルを経て、硬派なジャーナリズム・ノンフィクション記事と、老若男女を問わず面白く読める読み物の二本柱に磨きをかけています。今年は「記憶喪失男性の告白」「サナエトークン」などスクリューを多数掲載。気鋭の書き手による寄稿や新連載も増やし、雑誌ジャーナリズムを盛り上げたいという思いで編集しています。

手薄だったSNS発信も本格化しました。まもなく創刊70年を迎える伝統を守りながら、たゆまず新たな挑戦をしていきます。

硬派と読み物に磨き SNS発信も本格化

雑誌リーダー

2026

日本雑誌協会のご協力で
寄稿していただきました

<五十音順>



光文社

1986年11月5日に定価150円で産声を上げた『FLASH』。ジョーケンこと萩原健一さんをCMに起用し、「きちんと怒る。きちんと泣く。私はこの手の雑誌にきちんとしてほしい。」という台詞が話題を呼びました。あれから40年がたった今、Web版『Smart FLASH』も月間1億PVを達成し、2006年からスタートしたグラボアコンテスト『Miss FLASH』も、今年で21回目を迎えます。令和の時代も「きちんと、のぞきます。」をモットーに日本中を駆けまわります！

『FLASH』40周年 「きちんと、のぞきます。」

朝日新聞出版



今年、創刊38年を迎えたニュース週刊誌「AERA」は、多様性を認め合い、寛容な社会をつくりたいという思いのもと「やさしくなりたいプロジェクト」を、雑誌、WEB、イベント、動画、SNSなどを絡め、多彩に展開しています。雑誌では、一冊丸ごと「やさしさ」をテーマにしたシンボル号を発行したほか、ウエルビーイングや地方創生、女性応援などの特集も、プロジェクト傘下で毎月実施しています。ご注目ください。

「やさしさ」テーマに 多彩なプロジェクト

集英社

今年「メンズノンノ」の創刊40周年イヤー。正月合併号では36年ぶりに阿部寛さんが表紙に登場されて話題に。さらに「週刊プレイボーイ」は60周年で、写真集キャンペーンなどを実施中です。また、既に媒体はありませんが、少女小説の発展に寄与した「集英社コバルト文庫」の50周年イベントが開催され、大宅文庫様にもお世話になりました。そして今年「集英社」が創業100周年。多彩な記念企画を進めておりますので、特設サイトをご覧くださいませと幸いです。

多彩に創業100周年 記念企画、特設サイトで

Gakken



漢字ナニクロ専門誌『ナンパラ』は、1993年の創刊より33年、2026年5・6月号で創刊300号を迎えました。イラストヒント、漢字しりとり、四字熟語、そして真つ白いマスだけが並ぶ高難易度「ホワイトナニクロ」……さまざまな難易度のどのパズルにも、楽しみながらチャレンジしてくださる愛読者様への感謝を胸に、これからも「解き応え」を「実感できる雑誌」づくりに邁進いたします！

パズルファンの応援に 感謝の33年・300号！

主婦と生活社

日本初の女性週刊誌「週刊女性」を発行する主婦と生活社は、2025年7月に台東区浅草橋に移転して1年がたちました。歴史のある「週刊女性」だからこそ書ける深掘りされた皇室ニュースをはじめ、芸能スクープ、事件・事故の現場記事、興味津々なランキング企画、健康やお金についての特集記事が盛りだくさんです。2026年5月発売号より、誌面の文字が大きくって読みやすくなりました。ニュースサイト「週刊女性プライム」でも独自の記事と最新ニュースを発信中です。

日本初の女性週刊誌 最新ニュース発信も

KADOKAWA

ネット時代、情報は無限に増えました。しかし一方で、フェイクニュースやコタツ記事も氾濫し、読者は何を信じればよいのか分からなくなっています。だからこそ、一次情報に当たり、関係者に取材し、裏取りを重ね、編集責任を持つて世に出される雑誌記事の価値は高まっています。速報ではなく、事実の背景や社会・産業の構造を読み解き、読者が考えるための足場を与えることに、雑誌の新しい役割があります。雑誌再興に向けて、やれることはまだたくさんありそうです。

高まる雑誌記事の価値 読者が考える足場に

徳間書店

『グッズプレス』は11月で創刊38周年を迎えます。「38」といえば腕時計好きが「ちようどいい」と好む定番ケース径——そんな発想ができるモノ好き読者に支えられています。昨今は原点に立ち返り、趣味に没頭する大人を応援中。トレンドだけでなく、好きを深掘りする特集を「Book in Book」形式で展開するほか、デジタル連動で最新のライフスタイル情報を日刊・週刊・月刊で発信しています。40周年まであと2年。私たちも趣味人にとって「ちようどいい」1冊であり続けたいです。

モノ好き・趣味人に
寄り添って38年

小学館

「女性が自分らしく一週間を楽しむ」という願いを込め創刊された『女性セブン』は、今年で創刊63年を迎えます。週刊誌を取り巻く環境は大きく変化しましたが、変わらぬ「背骨」は読者の「半径5メートル」の悩みや興味に徹底的に寄り添うことにあります。芸能や事件のスクープ、五感を揺さぶる感動秘話、生活を豊かにする実用情報まで、本音で届ける姿勢は変わりません。これからも「人には聞きにくい、でも実は本当に知りたいこと」をしつかり届けます！

女性自分らしく一週間
「本当に知りたい」届け

扶桑社

ESSSE

『イーエスエスイーエッセ』でおなじみの生活情報誌『ESSSE』は今年で創刊45周年を迎えます。時代と共に読者の中心は専業主婦から共働き世帯へと変化しましたが、女性の困りごとを解決し、「ワクワクできる毎日」を提案する編集方針は変わりません。また雑誌由来のWebメディア「ESSSE online」も10周年を迎え、紙とデジタルの両輪で新たな価値の創造に挑戦します。

『ESSSE』創刊45周年
紙とデジタル両輪で

新潮社

週刊新潮は今年2月創刊70周年を迎えました。サブスクリプションサービス「新潮Q.U.E」をスタート。週刊新潮電子版をどこよりも早く読めるほか、様々なコンテンツを提供いたします。何かを知るためにはパソコンやスマホでAI（人工知能）に聞けばよい。しかし、答えを導き出すためにはどんな「問い」が必要なのか。新潮Q.U.Eがテーマとする「問う力」を、これまで営々と養ってきたのが大宅壮一文庫。AI時代になっても、大宅壮一文庫の雑誌検索機能は必要です。

「新潮Q.U.E」スタート
週刊新潮どこより早く

文藝春秋

大宅文庫にはカストリ雑誌も收藏されている——。「文藝春秋」2023年7月号掲載の記事「大宅壮一と文藝春秋」で、大宅文庫評議員のノンフィクション作家、森健氏がこう書いています。日本一の冊数ともいわれる大量のカストリ雑誌こそ、低俗や高尚にとらわれない、大宅氏の「無思想の思想」の象徴ではないでしょうか。大宅氏が数多くのルポを寄稿して下さった「文藝春秋」は、今後も、そんな「思想」が掲載されるのにふさわしい場でありつづけていたいと思っています。

文庫のカストリ雑誌
「無思想の思想」の象徴

世界文化社



1958年創刊。以来、衣食住から医学までを網羅するライフスタイル誌として、歩んできました。一方で60年代には、いち早く誌上企画から通販事業を開始するなど、誌面を超えた革新性を常に大事にしています。2027年3月号での70周年は、誌面やデジタル、通販、イベントに加え、家庭画報の旅など、ここから広がるリアルな世界へ、多くの方に「お楽しみいただける様々な企画を取り揃えて臨んでまいります」。

『家庭画報』は来年
創刊70周年を迎えます

マガジンハウス



日常の「なぜ?」「どうして?」を楽しく解明、自然と知識が身につくと小学生たちに大人気の韓国発の学習まんが『つかめ! 理科だま』。第12巻を発売し、日本国内でシリーズ累計250万部、日韓では400万部を記録している大ヒット作です。本の世界を飛び越えアニメ化も進行中、また夏休みには上野の国立科学博物館でのイベントも。夏休みの読書や自由研究のヒントとして、ますます人気が加速しています！

日韓で400万部突破！
学習まんがに新旋風。

東洋経済新報社

2026年6月発売号をもって創刊90周年を迎えた『会社四季報』は、日本を代表する企業情報誌として、そして内外の投資家のバイブルとして価値ある情報を発信し続けています。約4000社の上場企業に担当者記者が張り付き、当該会社の現状分析、課題、そして未来の業績予想情報まで提供。それらは、競合他社の追従を許さない、株式投資家にとって必須の情報となります。これら貴重な情報は、会社四季報ONLINEといったWeb媒体でも配信し、好評を博しています。

企業の未来を書き
続けて歩んだ90年

文春新書



(ノンフィクション作家)

泉秀一

第57回
大宅壮一
ノンフィクション賞
受賞

箱根駅伝のエース区間「花の2区」を誰よりも速く駆け抜けたにもかかわらず、私たちは彼らの家族、兄弟、故郷、友人、そして来日の方法などについて何ひとつ知らない。正月のテレビ画面に「見えているのに「視えない存在」——ケニア人留学生の謎を追ってアフリカの大地を訪ね歩いた。

文春新書
1518

アフリカから来たランナーたち

箱根駅伝のケニア人留学生

泉秀一



●定価1210円(税込) 電子書籍も発売中

アフリカから来たランナーたち

箱根駅伝のケニア人留学生

詳しくは
こちら

第57回大宅壮一ノンフィクション賞

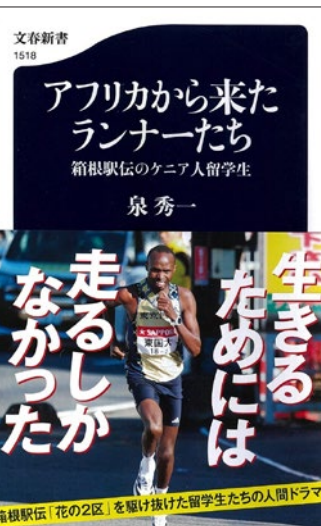
留学生ランナーの謎
追いかけた泉さんに

第57回大宅壮一ノンフィクション賞（日本文学振興会主催）は、ノンフィクション作家・泉秀一さんの『アフリカから来たランナーたち 箱根駅伝のケニア人留学生』（文藝春秋）に決まった。贈呈式は6月24日、都内で行われた。



贈呈式に臨む泉秀一さん

受賞作は、泉さんがフリーランスになって最初に取り組んだテーマ。正月の風物詩である「箱根駅伝」を舞台に、活躍するケニア人ランナーの謎を追った。どのような背景を持ち、なぜ日本に来たのか。3度にわたるケニア取材で選手本人や家族らと過ごし、一人ひとりの人生に迫った。問題の深層にふれる中で、お金の流れ、日本人のビジネス、ランナー発掘システムなどが明らかに、多角的なレポートに結実した。贈呈式では選考委員5人



フリーランス最初のテーマ

いずみ・ひでかず 1990年生まれ。福岡県出身。2013年、関西大学社会学部を卒業後、ダイヤモンド社に入社。週刊ダイヤモンド編集部、News Picks編集長を経て2024年に独立。フリーランスのノンフィクションライターに。著書に『世襲と経営 サントリー・佐治信忠の信念』（文藝春秋）。趣味はランニング。

ビッグ錠さん
漫画家協会賞

文部科学大臣賞のビッグ錠さん（右）

大宅壮一東京マスコミ塾第6期生のビッグ錠さん（86）が、第55回日本漫画家協会賞で文部科学大臣賞に輝いた。

『包丁人味平』『スーパークイーン坊』など多数の著

を代表し、佐藤優氏が審査評を述べた。佐藤氏は受賞作の本を手に「これが素晴らしいノンフィクションだと授業でも使っています」と教鞭をとる大学でのエピソードを披露。「人間をトータルに扱うことができ、緻密な取材をするノンフィクション作家が、その力にふさわしい賞を取った」と称賛した。

泉さんは受賞後の7月、世田谷区八幡山にある大宅壮一文庫を訪れた。これまでも大宅文庫の資料を利用してきたが、来館したのは初めて。所蔵された雑誌の膨大な情報量を目の当たり

「なくなると困る」
文庫を初めて訪れ

にし、「なくなったら絶対に困る」と思ったと語った。書庫を見学した後、「この雑誌の情報量をウェブは代替できていない」と話した。そのうえで「30年後、50年後の人たちは何をもって過去を振り返るのか。ウェブには情報がある一方で、実はストックされていないのではないのか」とも。発表データや発表報道だけを蓄積していくAIが進化するほど、「ノンフィクションの機能が必要になるはず」と、自身の取り組みに思いをめぐらせた。

グ錠先生!!」と称賛された。6月に都内で行われた贈呈式では、永年の盟友バロン吉元さんらと軽快なダンスも披露した。

◇



ビッグ錠先生、晴れのご受賞おめでとうございます。大宅文庫への長年にわたるご厚情に心より感謝申し上げます。

大学連携

世代超え PR

大宅文庫と大学・専門学校との連携が広がりをみせている。東京都立大では生涯学習講座のテーマとして「大宅文庫」が取り上げられ、中央大と跡見学園女子大では文庫職員が授業で学生と向き合った。一流講師陣による専修大の恒例「出前講座」は6年目を迎えた。若い世代や一般市民にも文庫の存在を知ってもらおうと、すそ野を広げる地道な取り組みが続いている。

「雑誌ジャーナリズム論」講座

大宅文庫が出版業界から一流の講師を招へいする専修大の「雑誌ジャーナリズム論」講座は、2026年度後期も全14コマのカリキュラムが組まれた。

講師陣には、ノンフィクション作家で大宅賞受賞の森功さん、元「中央公論」編集長で中央公論新社社長室・社長特別補佐の三木哲男さんをはじめ、そうそうたる顔ぶれが並ぶ。大宅文庫からも鳥山輝専務理事や索引作成の専門職員らが講師となり、文庫の価値と役割、使い方を学生たちに伝える。

専修大で6年目に

大宅文庫が出版業界から一流の講師を招へいする専修大の「雑誌ジャーナリズム論」講座は、2026年度後期も全14コマのカリキュラムが組まれた。

専門学校生「調べもの」体験

専門学校・東洋美術学校（東京都新宿区）の学生たちが7月、大宅文庫で「調べもの」体験をした。

毎年継続しているクリエイティブデザイン科の実習で、雑誌資料を使うリットや大宅文庫の活用方法を学ぶ。職員によるレクチャーを受けた後、数人ずつのチームがテーマごとに検索・閲覧・記事複写の申し込みなどを体験した。

利用方法いろいろ

Web OYA-bunkoは有料サービスです。①大宅文庫に来館②全国の導入施設（図書館・大学）③大宅文庫の賛助会員（法人・個人）④パトロネーショナル個人会員——などの利用方法があります。



人物トップ大谷選手

大宅文庫が2025年、主要雑誌から作成し、データベースに追加した記事索引の総件数は15万4685件だった。

「人物」のトップは3年連続で大谷翔平。第1子誕生や二刀流復活、チームも2年連続ワールドシ

リーズ制覇に輝き、勢いが止まらなかった。日本球界では昭和を代表する長嶋茂雄（3位）の計報に日本中が悲しみに包まれた。政界では、自民党総裁選で敗れたものの存在感を示した小泉進次郎が7位、10月に憲政史上初の女性首相となった高市早苗は8位だった。（敬称略）

2025年 索引ランキング

人物		
1	(1)	大谷翔平 424件
2	-	中居正広 169件
3	-	長嶋茂雄 160件
4	(3)	敬宮 152件
5	(11)	秋篠宮悠仁 131件
6	(5)	A&I group 127件
7	(12)	小泉進次郎 102件
8	(31)	高市早苗 100件
9	(13)	秋篠宮佳子 83件
10	(7)	今上天皇 82件

出来事・事柄		
1	-	トランプ政権 587件
2	(1)	アニメーション一般 461件
3	(31)	石破内閣 426件
4	(3)	老人一般 339件
5	(5)	菓子一般 323件
6	(44)	その他の政党一般 315件
7	(14)	電子計算機 310件
8	(6)	ポルノビデオ 302件
9	(4)	人気スター 297件
10	-	フジテレビ 292件

※カッコ内は前年順位（一は100位外）

索引検索システム

Web OYA-bunko 大宅文庫 雑誌記事索引検索

簡単検索

フリーワード検索 調べたい内容で自由に検索

大宅文庫がつくった項目やキーワードから検索

人物 人名項目から検索

職業 職業・会社名・所属団体名が同じ人物を一覧表示 候補

職業分野 17のカテゴリから選択 選んだ職業分野に含まれる人物

ことから 事件や運動風俗など物事・出来事をキーワードから検索

分類体系 ことから関する大・中・小の件名項目とキーワードから検索

Web OYA-bunko

大宅文庫の雑誌記事索引データベースWeb OYA-bunkoの大規模リニューアルから3年が経った。140年におよぶ記事索引を一括で調べられるようになり、メディア関係者や研究者らの評価が特に高い。また、遠隔地の個人ユーザもスマートフォンやタブレット画面での利用がしやすくなり、好評だ。

多くの人がAIで調べものをするようになったが、AIはネット普及以前の資料に正しくアクセスすることがまだ難しいとされる。これに対し、Web OYAは、それまで一括検索できなかった1988年（昭和63年）以前の索引データを統合。ひとつのテーマについて明治期まで一気に

さかのぼって検索することが可能になり、レファレンスツールとして強化された。リニューアルによりWeb OYAは新しい情報とともに、より古い雑誌記事アーカイブスとしての価値が高まったと言えよう。近年その価値をさらに高めるため、所蔵雑誌を過去にさかのぼって索引を増やす「遡及入力」にも力を入れている。

大宅文庫は「雑誌の図書館」であり、80万冊の雑誌を所蔵していることが何よりの強みだ。Web OYAで検索し、ヒットした索引の元記事は、すべて掲載された雑誌の現物がある。つまり原本を読むことも、誌面のコピーを取り寄せることも可能なのだ。

これが長く利用されてきた理由であり、AI時代にあっても実体的な情報「アーカイブ」続ける意義に変わりはない。

（システム担当課長 大内康嗣）

「個性際立つ」文庫 都立大の生涯学習に

都立大で6月に開催されたオープンユニバーシティ特別講座。シリーズ企画の3館目に登場した大宅文庫は「個性際立つ日本初の雑誌専門図書館」として紹介された。同大飯田橋キャンパスで行われた講義では鳥山輝専務理事が登壇。大宅壮一の怒涛の生涯をたどり、「人生を豊かにする本物の教養を身につけることが大事」と大宅スピリッツの魅力を語った。日を改めて行われた文庫の見学を含

文庫を見学する受講者



め、20人近い受講者が参加し、通常は未公開の書庫や所蔵資料に強い関心を寄せていた。

中央大、跡見女子大 授業で学生と向き合い

中央大の授業は、文学部社会情報学専攻・小山憲司教授のゼミで行われた。前年の図書館総合展で同ゼミのポスターが大宅壮一文庫賞を受賞し、これを機に小山教授から研究室と文庫の連携について提案があった。

そこで、大宅文庫の活用や活性化策を研究テーマとするゼミ生たちが6月に書庫を見学。その後、文庫の元谷紀子事務局次長らがキャンパスに出向き、「雑誌記事

索引と検索」というテーマで講義を行った。7月の授業では教室と文庫をオンラインで結び、学生たちがプレゼンで成果を発表した。跡見学園女子大では5月、文学



部現代文化表現学科・元永純代准教授の授業「写真」に大内康嗣システム担当課長がゲストスピーカーとして招かれた。長く教授を務めた富川淳子氏(大宅文庫理事)のころから文庫と縁があり、元永准教授も学生と文庫を見学したことが今回の講義につながった。

「現代日本のファクション」の授業で、大内課長は所蔵雑誌をスライドで紹介しながら「ファクションの時代性と多様性」などについて解説。学生からは卒論を念頭に置いた質問も出て、文庫資料の活用を若い世代にアピールした。

破天荒な少年だった

大宅壮一

大宅壮一文庫専務理事 鳥山 輝

「生涯学習講座の『日本の魅力ある図書館シリーズ』で大宅壮一文庫を取り上げたい」

先ごろ東京都立大学からこんな依頼が飛び込んだ。二回講座で初回は大宅壮一について、二回目は受講者が大宅文庫に向く講座にしたいという。大宅文庫を知っていただくよい機会なので快諾した私は「マスコミの帝王と呼ばれて縦横無尽の活躍をした大宅の原点は、少年時代の驚くべき生き方にある」と語り始めた。

大阪府高槻市生まれの大宅は、尋常小学校時代から家業の醤油醸造業を一人で切り盛りさせられた。大酒のみの父は財産を使い果たし、兄は兄で放蕩三昧。あきれ返った親子なのに、大宅少年は現実を受け入れた。そして、醤油樽を積んだ重い荷車を引き、さまざまな客とやりとりしながら社会のしくみや市井の人々の本音を体得していく。

その一方で少年雑誌に投稿を始め、入選常連者となって「西の横綱」と呼ばれた。家業と学業に追



われて作品を書く時間がなくて、配達しながら頭の中に原稿用紙を置き、一字ずつ埋める方法

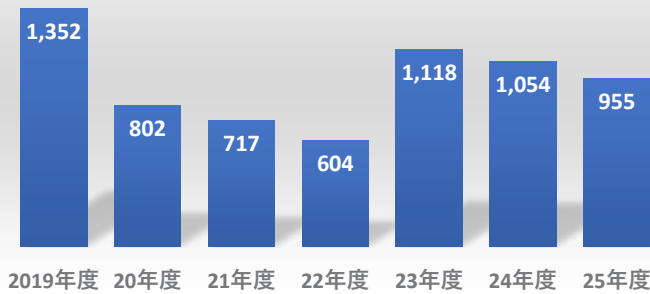
法を思いつく。帰宅後、記憶した文章をささっと原稿用紙に書き写す。この手法で次々に投稿を書き上げたそうだが、何とも奇抜、卓抜なアイデアである。茨木中学に進むと独学で文学や哲学、語学に取り組み、社会の動きにも関心をもち始めた。中学四年のとき、母校の小学校同窓会で講師を頼まれ「生存より生活へ」の演題で熱弁を振るう。この内容が新聞に書かれ、危険人物視されて退学させられる羽目に。しかし、こんなことでへこたれる大宅ではない。退学

後、難関の検定試験を受けて百人に一人だけ合格。さらに同級生より一年早く京都の三高受験に合格してしまふのだから痛快だ。

波瀾万丈の少年時代を過ごした大宅はその後、東大在学中から頭角を現し、評論家として活躍。少年時代に培った体験と知識を存分に生かし、七十歳で亡くなるまであらゆるメディアに登場し続けたのである。——私の話が終わると質問の手が上がった。その一つは「もしいま大宅が生きていたら、AIに振り回される現代の状況をどう見るか」というもので、こう答えた。

「大宅が他界してまもなく三島由紀夫が自衛隊に決起を促して自決する事件が起き『大宅が生きていたらなんというか』と言われた。テレビが登場したときは『俗悪番組が増えると』『一億総白痴化』が進む」と批判しながら、テレビは社会と人々をプラスに変えるメディアだと見抜き「一億総評論家」という巧みな造語を残している。ネット社会に変わったいま、大宅が予見した通り一億総評論家時代が到来している。ロコミ、虚業、得できるのではないか」

「革命的な威力のあるAIについては、好奇心のかたまりの大宅のことだから、一億総白痴化と同じように、まずマイナスイメージに指摘するだろう。そのうえでだれもがAIを使いこなす時代になると、得意の造語を交えて表現しそうな気がする」

パトロネージュ会費総額の推移
(単位:万円)

大宅文庫パトロネージュ

◇25年度 参加された方々◇

(公表を了承された方のみ掲載・敬称略)

【企業・団体】 富士化学塗料 マガジンハウス
講談社 文藝春秋 集英社 学研ホールディングス
双葉社 竹書房 扶桑社 小学館 西武
鉄道 びあ 白泉社 グレイス企画 大日本印刷

【個人】 中本基子 鎌倉幸子 永山ヒデ子
栗野勝義 羽田忠彦 石黒充 三浦なつみ 田
村智紗子 鳥山輝 高橋三男 唐津泰典 福田
勝樹 渡辺喜満 徳田恵里 青木宏導 梅田純
一 会田久仁夫 新保信長 山本紀美子 小野
寺寛晃 奥山脩二 古谷博徳 竹中富知男 渡
辺久利 渡辺明子 永田裕之 佐久間一政 吉
成敏夫 椿靖子 石井正暁 高山謙司 富田明
生 和田隆次 内田樹 佐藤和宏 森義真 三
好隆弘 鈴木典子 野間省伸 村上公子 末永
汎本 紺野浩 中能島知子 山寄進 石井謙
一郎 堀内丸恵 富川淳子 西川盛朗 有田順
子 宮崎壽子 松山巖 黒井昭典 小林一 桃
井恒和 井上和明 渡辺聡 大塚秀郎 小池真
理子 中村美穂 松田紀子 武田徹 二之湯智
中井一平 枝史子 高橋岳二 市万田智子 柴
田正明 森晃一 井上昌彦 野村隆二 高橋豊
中島昌喜 阪本博志 樋渡えみ子 脇雅俊 瀬
尾健太郎 麻田真 合六美和 天野優 鎌田隆
幸 松橋昭治 冬沢竜彦 井沢元彦 本間啓示
<順不同>

支援の輪

大宅文庫の運営を支えようと、多くの
善意が寄せられている。支援事業の柱の
一つである「大宅文庫パトロネージュ」に
は2025年度、総額955万5千円の
会費(寄付金)が集まり、3年連続で
1000万円規模に達した。このほか賛
助会員制度、一般寄付、チャリボン、遺
贈など用途や目的に応じた支援の受け皿
がある。文庫の魅力と併せて「支援の輪」
のPRにも力を入れている。

(左ページ参照)

3年連続 1千万円規模

25年度 16社129人

パトロネージュ事業は2019
年度にスタートし、25年度が7年
目だった。コロナ禍の時期には伸
び悩んだが、23年度に回復。25
年度は企業・法人会員が16団体
432万円、個人会員は129人
から523万5千円の会費が寄せ
られた。いずれも前年度比で漸減
だったものの、ほぼ前年並みを維
持した。

このうち個人の方からは会費
100万円が2件あったほか、年
度内に複数回にわたって会費を納
めてくれた方もいた。地域別にみ
ると、個人会員は24都道府県に広
がり、首都圏の1都3県(95人)

専門図書館の司書って？
高校生が「職業さがし」

地下の書庫で雑誌を探す高校生

が全体の4分の3を占める。最多
は東京都の60人。
パトロネージュでは、個人会員
になると大宅文庫の雑誌記事索引
データベースWeb OYAB
unkoll18ページ参照IIの検索

が全体的に4分の3を占める。最多
は東京都の60人。
パトロネージュでは、個人会員
になると大宅文庫の雑誌記事索引
データベースWeb OYAB
unkoll18ページ参照IIの検索
を図っていく。

世田谷文学館による高校生向け
の事業「生業(なりわい)さがし」
が8月、大宅文庫で行われた。

将来の職業を現場に出かけてイ
メージしてもらおう夏休みのキャリ
ア探究型ワークショップ。参加し
た高校生3人は元谷紀子事務局次
長の案内で、まず文庫の特徴や概
要について説明を聞いた。その後、
1階の端末で自分が見たい雑誌を
検索し、リストを手には通常は非公
開の書庫へ。地下から2階まで雑
誌がぎっしり収まった書架に目を
見張っていた。

終了後、「索引の仕組みに感心
しました」という感想や、「雑誌の
ある場所を覚えるまでに、どのく
らいかかりますか」という質問も。
一般図書館とは異なる「専門図書
館の司書」の仕事に接し、関心を
寄せていた。

雑誌の図書館「大宅壮一文庫」ご支援のお願い

平素より大宅文庫をご利用いただき、誠にありがとうございます。

大宅文庫は、市販雑誌を中心に160年近くにわたる歴史ある資料を所蔵しています。雑誌記事はさまざまな事象を取り上げており、図書館で一般的に用いられる手法に沿って分類・配架することが困難です。そのために創設者・大宅壮一が考案した記事ごとの索引と、索引カード＝データの整理分類による検索システムが多くの皆様に利用されてきました。

さまざまな事象が発行日付とともに一冊にまとめられている雑誌は、表紙やグラビア写真・広告まで含めて、調査情報の肉付けにも役立ちます。

大宅文庫の運営基盤となる費用は、主に皆さまからの利用料金で賄っています。2002年に索引データベースのインターネット公開を始めてからは、その契約料や利用料も収入の大きな柱になってきました。

一方、膨大な所蔵雑誌の保存と索引の作成、運営維持に要する費用は年間1億6000万円を超えます。コロナ禍を経て一変した情報収集や通信環境の変化は、残念ながら大宅文庫の利用減少を招き、利用料金だけでは費用を賄うことが極めて厳しい状況になりつつあります。

大宅文庫が提供できる雑誌資料の価値をご存じて、利活用していただいているマスコミ、研究者の皆さまは、ぜひとも引き続きご利用ください。そのことが、この貴重な文化遺産を未来へと橋渡しする大きな力となります。定期的な利用には、一層便利な**賛助会員制度**もあります。ぜひ加入をご検討ください。また、ご利用がなくても、市販雑誌を永年収集保存する世界的にも珍しい施設が世田谷区八幡山にあることを、一人でも多くの方々に伝わるよう広報のお力添えを願えれば幸いです。

2017年にクラウドファンディングで資金を募って以来、大宅文庫には直接的な支援がたくさん届くようになりました。翌18年からは存続を目指して支援会員を募る「**大宅文庫パトロネージュ**」が発足し、多くの皆さまから年間1000万円前後のご支援をいただいています。安定的な支えとなるパトロネージュへの参加の拡大と、継続を願っています。

このほか随時の**一般寄付**や、古本買取の仕組みを活かした寄付「**チャリボン**」（運営：株式会社バリューブックス）でも大宅文庫の支援が可能です。引越しなどでまとめて本を整理することをお考えの方は、チャリボンのサイトから大宅文庫への寄付をお選びのうえ、お手続きください。

さらに大宅文庫では**遺贈**（遺言によるご寄付）並びに相続財産のご寄付も受け入れています。遺贈を検討されるのであれば、READYFOR株式会社で大宅文庫を受け入れ団体として指定することができます。詳しくはREADYFOR遺贈寄付サポート窓口（右のQRコードからリンク）でご相談ください。

明治以来の雑誌資料と雑誌記事索引——この貴重な文化遺産を次世代へつなぐことが、私たちの使命です。

ぜひとも皆さまのご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

一般寄付

公益財団法人として雑誌図書館の事業継続のために役立てる。



賛助会員制度



法人としての大宅文庫の事業活動に賛同し、利用特典のある会員になる制度。「法人」「個人」「学生」の区分で入館料や閲覧冊数などの特典がある。



パトロネージュ

英語・フランス語で「支援」する行為を意味する。個人、企業・団体の幅広い参加により、会費（寄付金）を大宅文庫の財源の柱としていく。会員特典もある。



チャリボン



古本を集め、NPO団体や図書館などの活動資金を生み出す新しい寄付の仕組み。



遺贈

遺言書を作成し、財産の全部または一部を特定の個人あるいは団体に無償で譲渡（贈与）する。



詳細はQRコードからHPへ

支援のお問い合わせ



TEL 03-3306-4661

大宅賞に2作品

調べる学習コンクール

第29回図書館を使った調べる学習コンクール(主催・公益財団法人図書館振興財団)で、優秀賞「雑誌の図書館 大宅壮一文庫賞」に次の2作品が選ばれた。

3月の表彰式で、大宅文庫の鳥山輝専務理事から盾などが贈られた。

▽高校生の部『女子サッカーの持続可能な発展に向けてー環境整備と経済

活動の両立ー』伊知地愛さん(大阪府・清教学園高校3年) Ⅱ女子サッカーを取り巻く環境や制度について、問題意識を出発点に調査・分析。競技継続の難しさや背景を文献資料から整理し、選手目線だけでなく多角的な視点から課題と今後の可能性を考察した。

▽大人の部『横手の「かまくら」再考ー民俗行事と観光行事ー』高橋輝幸さん(秋田県) Ⅱ小正月の武家の鎌倉祝儀、町民の万燈、農民の鳥追いが融合し、子

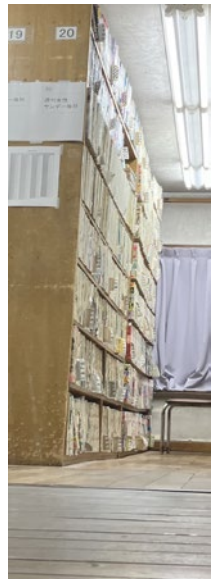
どもの行事として成立した「かまくら」。その成立過程と観光化の歴史を振り返り、観光と伝統を両立した祭りの在り方を考察した。

利用料金 改定しました

大宅文庫は、9月から資料コピーや配送サービスなど利用料金を一部改定しました。

◆インフォメーション◆

素顔の書庫



できませんでした。可能な限り従来の料金維持に努めてまいりましたが、サービスの質を安定的に保つため、やむを得ず利用料金を見直しました。一般入館料や追加閲覧料などは据え置き、入館料の年齢区分は終了しま

した。皆さまに安心してご利用いただける資料環境の維持・向上に努めてまいります。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。



大宅文庫 新評議員に早河氏 堀内評議員は理事に

公益財団法人大宅壮一文庫(大宅映子理事長)の2026年度の理事会と評議員会が6月に開催され

た。役員改選などが行われ、新体制がスタートした。

新たな評議員として早河洋氏(テレビ朝日ホール

ディングス代表取締役会長、日本民間放送連盟会長)が就任。評議員だった堀内丸恵氏(集英社相談役、元日本雑誌協会理事長)は理事となった。伊藤雅俊理事(元味の素代表取締役社長)は退任した。

◆大宅壮一文庫 理事・評議員・監事

【理事長】大宅映子(評論家)

【専務理事】鳥山輝(元中央公論新社社長)

【理事】飯窪成幸(文藝春秋代表取締役社長) Ⅱ富川淳子(元日本出版学会会長) Ⅲ三枝和(フリーランスライター) Ⅳ野間省伸(講談社代表取締役社長) Ⅴ堀内丸恵(集英社相談役)

【評議員】阿川佐和子(エッセイスト)

▽武田徹(専修大学文学部教授) Ⅱ早河洋(テレビ朝日ホールディングス代表取締役会長) Ⅲ森健(ジャーナリスト)

▽三木哲男(中央公論新社社長特別補佐) Ⅳ山根一真(ノンフィクション作家) Ⅴ吉永みち子(著述家)

【監事】有馬学(九州大学名誉教授) Ⅱ矢嶋功作(税理士事務所代表)

(五十音順・敬称略)

主な改定料金

来館コピー料	
一般・会員	モノクロ1枚 120円
	カラー1枚 180円
学生会員	モノクロ1枚 80円
	カラー1枚 130円
配送サービス	
一般・会員	モノクロ1枚 150円
	カラー1枚 220円
学生会員	モノクロ1枚 110円
	カラー1枚 140円
FAXサービス	
索引1枚(10件)	500円
索引検索手数料	700円
記事複写1枚	450円
Web会員版	
索引表示1件	30円
記事複写1頁	350円

大宅文庫の使い方

◆来館して利用◆

▽入館料 500円。開架式図書館で1人10冊まで閲覧可能。追加(有料)もできる。▽記事コピー 著作権法の範囲内で希望のページを複写(有料)。

◆遠方から利用◆

▽配送サービス 記事の出典が明確な場合に限り、

編集余話

◇雑誌専門図書館は世田谷区の住宅街にぽつんと建っていたー10年余りに読んでミステリー小説の一節。いま思えば紛れもなく大宅壮一文庫だが、当時はピンと来なかった。縁があつて今、多くの時間を過ごしている。80万冊の雑誌つて…書庫に足を踏み入れて凄さがわかった。◇今号でお話を伺った泉秀一さんは「なくなると困る」と、阿川佐和子さんは「行つてみなければわからない」とおっしゃった。その真価を一人でも多くの方に。みなさんもぜひ一度、大宅文庫にお越しください。(脇)

「文庫ニュース」バックナンバーこちらに



大宅文庫ニュース 通巻91号

発行所 公益財団法人大宅壮一文庫
理事長 大宅 映子

〒156-0056
東京都世田谷区八幡山3-10-20
TEL03-3303-2000
<https://www.oya-bunko.or.jp/>

TRCは、 図書館総合支援企業です

わたしたちは図書館を「人類の英知を未来へと生かす知識と情報の宝庫」と考えます。
その図書館を利用するすべての人々が、教養を深め、自らの課題を解決し、心身ともに
健康な市民として自立し、働き、暮らすことで地域が活性化します。
わたしたちの使命は図書館サービスを通して地域社会に貢献することです。

図書館の基盤を支える

TRC MARC®

図書館のための書誌データベース
全国の公共図書館の89%が利用



在庫・装備・納入の図書館インフラ

装備付き図書の物流システム

埼玉県新座市と
福岡県久留米市の
物流拠点



図書館を支える運営

全国の公共図書館と学校図書館、専門図書館の受託運営

指定管理者制度に基づき、住民サービスの質の向上を図りつつ、多様化する住民ニーズに応え、効果的・効率的に図書館を運営。

地域の資源を支えている全国の図書館1館ごとに併せたサービスメニューの提案を行い、地域に密着したサービスを展開。



©Kazuki Nishiyama



TRCは、Web OYA-bunko公立図書館版の販売代理店です

株式会社
TRC 図書館流通センター

〒112-8632 東京都文京区大塚1丁目1番1号 <http://www.trc.co.jp/>

本から生まれる、無限の可能性



リポん マボレト マボレト ココハ クッキー officeYOU

Seventeen nonno BAILA LEE éclat SPUR

MAQUIA M EN'S NON-NO UOMO フライボーイ Myjo web Sportiva

すばる 小説すばる kotoba 集英社文庫 集英社新書 集英社

青春と読書 JUMPjBOOKS ダッシュエックス文庫 集英社みらい文庫 集英社 オレンジ文庫 集英社 オンライン shueisha.online

